

けんぽく

第40号[平成29年3月号]

県北地方の「食」と「ふるさと」新生運動に関する情報をお知らせします。



平成29年3月31日発行

「食」と「ふるさと」 新生運動ニュース

編集・発行 福島県県北農林事務所

◆特定非営利活動法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会が「豊かなむらづくり顕彰事業」優秀賞を受賞！

平成29年3月27日（月）、福島市の杉妻会館において「平成28年度豊かなむらづくり顕彰事業優秀団体表彰式」が開催され、管内より二本松市の特定非営利活動法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会（以下「ゆうきの里東和」という。）が、「むらづくり部門」において表彰されました。



福島県知事・福島民友新聞社社長との記念撮影

本顕彰事業は、本県の農業分野で最も権威のある賞の1つで、集落等におけるむらづくり活動や、農業生産活動に顕著な実績を収めている団体等を表彰するものです。

ゆうきの里東和は、平成17年に設立され、道の駅「ふくしま東和」の指定管理者を務めるとともに、環境に配慮した独自の栽培基準「東和げんき野菜」を設けたり、地域の特産品である桑にこだわった商品づくりを行う等、過疎・中山間地域の活性化に貢献しています。また、「東和地域グリーンツーリズム推進協議会」と連携して、農家民宿の開設支援や、宿泊希望者への農家民宿の紹介や受入調整を行っ

ており、都市との交流人口の増加活動に積極的に取り組んでいます。各取組では、地域の若者や女性、高齢者等、多様な人材がその能力を発揮しており、世代間を越えた交流が積極的に行われています。このような取組が評価され、このたびの受賞に繋がりました。



ゆうきの里東和 武藤一夫理事長の受賞者代表謝辞

なお、平成29年度「豊かなむらづくり全国表彰事業」に本県代表として推薦されることになりました。

ゆうきの里東和の皆様、今回の表彰、誠にありがとうございます！

（企画部、安達農業普及所）

◆やまふにゆうは やま山舟生羽山生活改善グループが「平成28年度農山漁村女性・シニア活動表彰」を受賞しました！

先月発行の当農林ニュース第39号で一部を速報させていただきましたが、伊達市梁川町の山舟生羽山生活改善グループが「平成28年度農山漁村女性・シニア活動表彰」の「シニア起業・地域活性化部門」で農林水産省経営局長賞を受賞されました。



山舟生羽山生活改善グループ(中央が秋葉初子会長)

山舟生羽山生活改善グループは昭和 61 年に発足して以来 30 年間の長きに渡り、「食品添加物を使わない安全で美味しい料理を食べてもらいたい」という強い信念で活動を続けてこられました。その中で、地元小学校と連携した食育活動や、伊達市やながわ希望の森公園内の産業伝承館での農家レストラン営業、あんぼ柿の懐石料理の試作等を通し、地域伝統の味や文化を伝える活動がシニアの知識や知恵を活かした地域活性化に貢献したとして今回の受賞となりました。



表彰式での記念撮影

また、平成 29 年 3 月 21 日（火）には福島県庁に小野和彦農林水産部長を表敬し、これまでの活動や表彰式の様子等について懇談しました。

さらに、翌平成 29 年 3 月 22 日（水）には受賞祝賀会が産業伝承館で開催され、吉田清伊達農業普及所長が受賞経過報告を、水戸典明県北農林事務所長が祝辞を述べました。祝賀会後に会食が行われ、グループ員が出席者 34 名に自慢の料理を振る舞いました。



大澤誠農林水産省経営局長より賞状を授与

表彰式は平成 29 年 3 月 7 日（火）、東京都文京区の東京大学安田講堂において行われ、グループ員 7 名のうち 6 名が参加しました。代表で秋葉初子会長が登壇し、大澤誠農林水産省経営局長より賞状が授与されました。



祝賀会での水戸県北農林事務所長の祝辞



祝賀会後の会食で出席者に振る舞った自慢の料理

4月からは産業伝承館で13年目となる農家レストランの営業が始まります（12月～3月は冬季休業）。皆さんもぜひおいしい料理を食べに足を運んでみてください。

（伊達農業普及所）



献上桃ソルベ(高貴でレトロなイメージ)

◆「献上桃ソルベ」お披露目会が開催されました！

平成29年3月3日（金）、福島市のホテル福島グリーンパレスで、約100名の飲食業や観光業の関係者等が集まり、桑折町主催の「献上桃ソルベ」お披露目会が開催されました。

桑折町では平成6年から毎年、皇室・宮家へ桃「あかつき」を献上している縁で、平成28年4月に「献上桃の郷」の商標登録を行い、平成28年産の厳選された桃には「献上桃の郷」シールを貼って販売する等、今年度から町を挙げて桑折町産桃のブランド化を図っています。



お披露目会会場の様子

「献上桃ソルベ」は、桑折町産桃「あかつき」の果汁をシャーベットにしたもので、いつでも手軽に味わえるようにと開発しました。「あかつき」の果汁75%と香料無添加で作られているため、果実本来の香りが広がる上品な味が特徴です。また、パッケージは献上桃のイメージに合わせてレトロな金色の模様で彩られた気品のあるデザインに仕上がりました。

始めに、高橋宣博町長より「献上桃ソルベにより桑折町産の桃の美味しさを年間通して味わっていただきたい」とのあいさつの後、木幡浩復興庁福島復興局長より「ブランド化や集客のカギは女性とスイーツ。農家経済にも良い影響が期待できます。」とのエールをいただきました。さらに、アイスクリーム評論家のアイスマン福留氏からも絶賛の言葉をいただきました。



アイスマン福留氏が絶賛！

また、商品化に向けた2年がかりの開発秘話についても紹介され、「今後とも『献上桃の郷』の名に恥じないよう、ますますおいしい桃づくりや商品開発に磨きをかけたい！」との関係者の話がありました。

なお、平成29年4月16日（日）には「献上桃の郷BBQフェス2017」が開催されますが、その場でも「献上桃ソルベ」を紹介する予定です。現在、桑折町内のセブンイレブン、うぶかの郷、手作り菓子工房大野屋、リカーショップ旭屋、福島市のコラ

ッセふくしまで、1個300円（税込）で販売されていますので、ぜひ御賞味ください。

（伊達農業普及所）

◆「県産食材利用推進キャラバン」を実施！

平成29年3月、管内の給食施設、宿泊事業者等における県産農林水産物の利用拡大を図るため、各施設を訪問する「県産食材利用推進キャラバン」を実施しました。

このキャラバンは、東日本大震災及び原子力災害による風評払拭・消費拡大を目指す「ふくしまからはじめよう。『食』と『ふるさと』新生運動」の一環として行ったもので、同運動の県北地方推進本部構成員である全国農業協同組合連合会福島県本部福島営農事務所の職員とともに13団体を訪問しました。



伊達市学校給食関係者へのキャラバン訪問

訪問先は、学校給食関係では二本松市、伊達市及び公益財団法人福島県学校給食会、流通関係では株式会社マルセイ及び有限会社福島青果物給食、病院関係では医療生協わたり病院及び公立大学法人福島県立医科大学付属病院等です。

この訪問では、県産農林水産物の利用状況や利用拡大に向けた課題等を聞き取るとともに、利用推進及び食育に関する支援制度、並びに食材カレンダー等の情報提供を行いました。

学校給食関係など利用者からは、カット野菜やそうざいの加工品に対するニーズが高いこと、供給側の産地では食材によってはまとまった量が供給できないなどの課題が浮き彫りとなるとともに、これ

らのミスマッチを解消するため産地（生産者）との需給調整を行うコーディネーターが求められていることも分かりました。



福島県立医科大学附属病院へのキャラバン訪問

いただいた意見を参考にさせていただきながら、今後さらに管内の県産農林水産物の利用拡大に取り組んでまいります。

（企画部）

◆福島市農業後継者連絡協議会「クラブ活動・意見発表会」が開催されました！

平成29年2月27日（月）、福島市のMAXふくしま4階A・O・Z（アオウゼ）において、福島市農業後継者連絡協議会（以下「市連協」という。）による「クラブ活動・意見発表会」が開催されました。

始めに、市連協及び市連協を構成する6つの単位クラブの代表者による1年間に実施したクラブ員同士の親睦を深める活動、栽培・経営技術向上を図るための研修会、公園の管理や子ども達とのサツマイモ掘りなどの地域貢献活動について発表がありました。



市連協の年間活動を報告する高橋正到会長

次に新規就農者から農業に対する熱い思いが語られました。福島市南地区でブドウを栽培している就農1年目の佐藤匠氏（南福島青年農業者後継者会）は、父親が震災後Uターン就農したことをきっかけに就農を決めました。同氏は農産物PR活動をしている際に想像以上に風評被害が大きいことにショックを受けましたが、福島県民の力強さに勇気をもらい、現在も農業を頑張っています。



農業に対する思いを語る佐藤匠氏

福島市東部地区でキュウリを栽培している就農2年目の大槻晃宏氏（岡山農業樹立クラブ）は、サラリーマンから農業の世界に飛び込みました。同氏は、「現在の農業は勘や経験に頼っている部分が多いが、これからはさまざまなデータを取得・活用しなければならない」と語っていました。

当農林事務所では、今後も本県農業の未来を担う若い農業者の活動を支援してまいります。

（農業振興普及部）

◆川俣町山木屋地区において和牛繁殖経営が再開されました！

川俣町山木屋地区で和牛繁殖経営を営んでいた菅野真一さんは、震災後に同地区から避難し二本松市戸沢で和牛繁殖経営を行っていましたが、今年度、自己所有牛舎に戻り平成28年度福島県営農再開支援事業（家畜の飼養実証）に取り組みました。

今回の実証の特徴は単管パイプを使用した簡易牛舎の導入で、3m×2.7mの牛房を3つ備えた牛舎（床面積24.3㎡）が、施工費も含めて約90万円

で完成しました。牛舎の建築坪単価は12万円で、通常の3分の1程度となり経営再開の大きな推進力となることが期待されます。

実証期間は、平成28年11月15日から平成29年2月末までで、期間中は月1度の家畜飼養状況調査を実施しました。また、平成29年2月16日に実施した検査では、飼料、敷料、井戸水及び牛の血液中のいずれからも放射性セシウムは検出されませんでした。



新しく導入された簡易牛舎

この実証事業を通して、今後山木屋地区において、畜産経営の再開が大きく前進することが期待できる取組となりました。

（農業振興普及部）

福島市・川俣町農業士会研修会が開催されました！

平成29年3月3日（金）、福島市のパセナカ・ミッセ地域交流スペースにおいて、福島市・川俣町農業士会主催の研修会が開催されました。この研修会は、同会の通常総会後に農業士の資質向上を目的として毎年開催しているもので、当日は農業士会会員、福島市職員、当農林事務所職員等26名が参加しました。

始めに、富士通株式会社Akisaiビジネス部真田勇氏から「農業分野におけるICT技術の活用と食・農クラウドAkisai（秋彩）のご紹介」と題し、講演がありました。近年、注目を集めているICT技術について農業分野での活用事例を交えながらわかりやすい説明がありました。この技術

は日進月歩の分野であり、今後の技術発展が大いに期待されます。



富士通株式会社 真田勇氏の講演

続いて、福島県農業総合センター生産環境部流通加工科の國分計恵子主任研究員から「青果物の鮮度保持技術の現状と課題」と題し、青果物の老化の仕組み、貯蔵、包装、エチレン制御技術等の鮮度保持技術の現状と試験研究の課題、輸出を視野に入れた規制等、広範囲な説明があり、消費者の口に入るまでが青果物の品質であることを再認識する発表がありました。



福島県農業総合センター國分計恵子主任研究員の講演

当研修会は、農業士にとって大きな刺激となり、実りの多い一日となりました。

(農業振興普及部)

このセミナーは、認定農業者や新規就農者等を対象に経営管理能力の向上を図るために毎年開催しているもので、関係機関を含め 38 名が出席しました。

今年は、静岡県の株式会社鈴生^{すずなり}代表取締役社長鈴木貴博氏をお招きし、「法人経営における人材育成～おいしさを求めて～」と題して御講演をいただきました。同社は静岡市を拠点に枝豆、レタスを中心に 100ha の出荷面積を有する大規模経営を実践しており、外食産業との契約栽培、有機・特別栽培、GAP の取組、耕作放棄地解消等、様々な先進的取組を展開しています。特に人材育成に関しては社員優先を経営理念に掲げ、社員の自主性を尊重して経営者感覚の醸成を図るよう努めるほか、作物の生育状況等の情報共有に ICT 技術を積極的に活用しながらも、それに頼らず顔の見える話し合いを重視する等、若い社員同士のコミュニケーションが十分図られる取組が数多く紹介されました。



講師の株式会社鈴生 鈴木貴博代表取締役社長

参加者からは、経営する上での雇用に関する質問等が出され、経営改善に向けた積極的な姿勢が伺えました。今後は、セミナーの内容を活用した農業経営の更なるステップアップが期待されます。

(農業振興普及部)

平成 28 年度認定農業者等育成セミナーを開催！

平成 29 年 3 月 9 日(木)、福島市市民会館において、福島市及び川俣町との共催により、平成 28 年度認定農業者等育成セミナーを開催しました。

けんぼくの6次化(ふくしま地域産業6次化新商品カタログ掲載事業者紹介)

一般社団法人伊達市農林業振興公社 “田畑を荒らすイノシシを地域の資源へ！！”

伊達市は、肥沃な大地に恵まれ、おいしい果物や野菜が収穫される農業の盛んなまちです。面積の約40%を森林が占めており阿武隈山系には多くのイノシシが棲息しているため、イノシシによる農作物などの被害は増加傾向にあり、それに伴って有害捕獲の頭数も増加、捕獲されたイノシシは全頭焼却処分されてきました。

そこで、少しでも地域振興に役立てることができないかと試行錯誤し誕生したのが、イノシシの大切な命を資源として活用する、イノシシ革有効利用プロジェクトです。

捕獲されたイノシシの「皮」を地元猟友会の方々に依頼し剥いてもらい、専門業者でなめし加工を施し「革」になったものを、市内に住む方々や市内の障害者施設で商品作りをしてもらい、完成した商品は市内の店舗やインターネットで販売を行っています。捕獲されたイノシシが「革」となり、地域に雇用と仕事を生み、地域振興につながっていくよう取り組んでいます。

イノシシの革は、柔らかく通気性もあり丈夫です。その特徴を活かした伊達市オリジナルのレザーブランドinoDATE(イーノだて)では、現在さまざまな商品を製作しています。最初は誰でも製作できるようなキーホルダーや巾着型のお守りなど接着剤で張り合わせるだけの小物だけでしたが、ネームホルダー・名刺入れ・ペンケースなどミシンを使用して縫い合わせをした本格的なものまで幅広く商品化できるようになりました。また、イノシシの力強さや猪突猛進といったイメージから、子どもの逞しい成長と迷うことのない人生につながるようと思いを入れた、赤ちゃんが初めて履くファーストシューズなどの新商品も続々開発中です。

地域のやっかい者であるイノシシを伊達市の新たな地域資源として活用すべく、これからも活動を進めていきたいと思えます。

【事業者データ】

- 住所：伊達市霊山町掛田字段居 45 番地 ●電話：024-564-2301
- ホームページ：<http://www.ino-date.com/> (商品一覧あり、通信販売も可能)



6次化新商品カタログに掲載されている「ino DATE B ナス (クリーナー付きキーホルダー)」



「inoDATE」のポスター



イノシシ革のファーストシューズ

福島県県北農林事務所 企画部 地域農林企画課

電話 024-521-2596 FAX 024-521-2850

ホームページ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36210a/>

電子メール kikaku.af01@pref.fukushima.lg.jp

